



# 無所属・市民派 枚方市議会議員 池上のりこの 市政報告NEWS

池上典子のホームページ

<事務局>枚方市楠葉中町35-16 <TEL/FAX> 072-856-2901

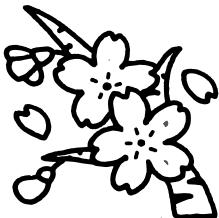
<枚方市役所> 議会事務局 TEL.072-841-1221

<http://www.ikegami-noriko.jp> (いけがみーのりこ.jp) 携帯用QRコード



この市政報告は、市政調査の為に発行しています。皆様から頂くメール、お手紙等はパブリックコメントとして議会活動に生かしていきますので、ご意見をお待ちしています。

春の便りが各地から届き始めました。  
みなさん、お元気ですか。  
今回の市政報告は「枚方市民病院」の特集をお届けします。



2008年10月に麻生総理が発表した、国民一人当たり1万2千円（65歳以上、18歳以下の方には2万円）、国全体では約2兆円の「定額給付金」支給が、1月27日に国会で実質上決定しました。

枚方市全体では約62億円ものお金です。私には特に支持する政党はありませんが、厳しい市財政状況の中で、市民生活に直結する事業に対して一つずつ厳しい判断を出さざるをえなかった現場の議員として、怒りと現政権に対する大きな失望を感じざるを得ません。

（\*ちょうど10年前にも「地域振興券」という名前で同じようなことがありました  
たが、費用対効果の検証は最終的にはできませんでした。少なくとも持続性  
は全くなかった。（日経新聞社説）というのが、一般的な見方です。）

総理大臣からは、「さもしく1万2千円が欲しい人も居る」などという、耳を疑うような発言がありました。この2兆円は総理のポケットマネーではありません。国の判断、国會議員の国民生活に対する想像力の欠如について「税金の使い道の、優先順位が違うんじゃないの!!」というだけで、受け取る側には何の問題もありません。

## [池上のりこプロフィール]

生年月日：1953年1月5日生（B型RH+）  
経歴：1971年 岡山県立津山高校卒業  
：1975年 日本大学法学部卒業  
：1995年 枚方市議会議員 初当選  
：2007年 枚方市議会議員 4期目  
家族：夫、3人の子供  
大きさ：身長/163センチ、体重/?  
ニックネーム：「がみちゃん♪」  
趣味：囲碁

池上のりこは「政党に属さず、特定の組織を代弁しない」「一人一人の市民以外に組織を持たない」無所属市民派の議員として、市政や議会に《生活者・納税者》の声を反映させるため活動しています!!



枚方市では昨年の春、長年の懸案であった東部清掃工場と火葬場が稼動を始めました。老朽化した市民会館、市役所庁舎等の課題もある中で、**地域医療の「最後の砦」**としての市民病院の建て替え計画が進行しています。

## 1 過去の不祥事

平成12年に、多くの病院職員が業者の供応に関わり、**名誉院長逮捕**にまで至る不祥事がおこり、医師・看護師42名の処分、外科医局は全ての医師の交代、逮捕された名誉院長に対しては退職金の全額返還がなされました。この事件を契機に、私は**「市民病院の廃止！」**を求めるようになりました。



- 当時市民病院で働く300人近い看護師等職員の年平均人件費（医師を除く）は約**1千万円**でした。そのような中で業者からの接待、供応が常態化し、中でも許せないと思ったのが、多くの**医療公務員**が長年にわたり、市民である患者から**入退院・手術に際して、謝礼金**まで当然のように受け取っていた事実です。
- また、老朽化した施設は**大規模災害時**には負傷した市民の受け入れどころか、まず患者の方の救出に向わねばならない状況でした。
- その上、平成18年には地上13階、地下1階、専門救急まで備えた**「関西医大病院」**が枚方市駅のまん前で開業するという計画が発表され、市民病院の**経営がさらに悪化する**と思われていました。

## 2 市民病院の現状

昭和25年に病床数26床で国民健康保険直営病院として開設され、昭和35年に「市立枚方市民病院」に改称し、現在は、一般病床411床・感染症病床8床の合計419床で、鉄筋コンクリート造り、地上5階、地下1階の建物です。

以前の調査によれば、「市民病院を利用したことがある」と回答された方は、市民の**3分の2**です。病院施設の基礎部分は、すでに**40年以上経過**していて施設・設備の老朽化が進み現在の耐震基準を満たすことは厳しい状況です。



# 経営状況…



昭和60年度から平成11年度までは単年度黒字を計上していましたが、平成12年の不祥事以降は経営状況が悪化し、毎年その赤字が膨らみ現在では、約**30億円**の借金（累積赤字）を抱えています。

しかし病院長がかわり、平成17年度には単年度で収支均衡が取れるようになり、平成18年度に関西医大枚方病院が開院したにもかかわらず、現在まで**単年度黒字**を続け、今後は**借金の返済計画に手をつける**「経営計画」が平成19年度に作られました。

ここ数年、経営的には単年度の収支がトントンになっていますが、救急医療等の不採算部分を支えるために、毎年約**10億円**の市民の税金が一般財源から市民病院に入っています。



## 3 問題点

### ■国・府からの援助

国は、公立病院の役割を「**地域に必要な医療の内、採算性の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供する**」としています。

要するに、「**儲からない医療は自治体病院が担え**」といっているのですが、それに対する国・府からの援助はないに等しいほどのものです。枚方市民病院にしても一般財源からの繰り入れは毎年約**10億円**ですが、国・府からの援助は年間約**2千万円あまり**というような状況です。



### ■近隣自治体からの支援

枚方市民病院は、北河内7市（枚方市、寝屋川市、交野市、四條畷市、大東市、守口市、門真市）で**唯一の公立病院**です。

病院経営の観点から、**民間病院は儲かる医療、お金になる医療、リスクの低い医療に特化していきます**。必然的に、枚方市民病院は北河内7市の受け皿にならざるを得ない宿命を担っています。

現に、平成19年度では「市外の利用者の方で」入院患者割合は35.1%、外来患者割合は35.1%、救急外来は21.4%、分娩（お産）は28%となっています。未収金の割合についても約20%で、約900万円になっています。



## 4 今後の課題



私は、数年前、主に以下の理由から  
**「市民病院廃止」→「存続」へと**

考え方を変化させてきました。

(公立病院の役割と姿勢を常に問い合わせながら厳しい精査をしていくことが前提です。)

① お産、小児救急等の民間医療機関の撤退等に伴う市民ニーズの変化。

② 星ヶ丘厚生年金病院の存廃問題。



③ 森田院長をはじめとする、医療公務員の意識の変化。  
(病院財政の建て直しをはじめ、老朽化した建物ではありますが、施設の清潔感にもそれは如実に現れてきています。)

しかし! 市民病院を存続させるためには  
**大きな課題**が  
**2点**あります。



### ■自治体病院に対する国・府の大額な援助、近隣自治体からの応分

負担、それが得られない場合の他市患者からの応分負担です。

市民病院を全く利用したことのない市民の方が三分の一です。一般財源から毎年約10億円を市民病院に対して入れているということは、その方たちは利用もしていないのに、市民病院を税金で支えておられるわけです。

それぞれの自治体で箱物、税金の使い道について優先順位は異なります。そして、民主主義のルールの中ではそれが市民合意となります。枚方市の場合は優先順位のトップクラスに「医療」があり、厳しい財政状況の中で大きなお金を見つめ込んでいます。市民病院を利用して頂く他の患者の方に「応分の負担」を求めるのは当然のことだと考えています。

## ■ 医師・看護師の確保

医師については、その大部分を大阪医大病院から派遣いただき、先年、継続的な医師派遣の「協定」を同大学病院と結びました。しかし、医師の研修医制度改革により、大学病院自身も医師確保については厳しい状況にあります。

未来の医者を目指して、研修先に「枚方市民病院」を選んで頂くケースも多く、研修終了後そのままドクターとして勤務して頂いている方もおられます。



看護師についてもその不足は否めず、現在、患者7人に対し看護師1人という基準に合わせるため、病床数を減らして対応している状況です。

○看護師は枚方市の公務員給与に基本的には準拠しているため「**年功序列賃金**」にならざるをえず、若い看護師さんたちが民間病院に向く傾向は必定です。「エキスパートとしての別の給与体系創設が必要だ」と…これも議会で提案しています。

○また、育児中の医師・看護師の確保に向けて、「**院内保育所**」の設置も必要です。



## 5 新病院構想

位置：現在の病院の東隣接地を含む現在地（開院しながら建設を進める）

形態：地上**7階**、地下1階、駐車場は現在の50台から179台に

科目：現在の診療科に合わせて、**緩和ケアー病棟**等の充実

金額：約**181億円**（枚方市と市民病院で折半）

緩和ケアーについては、身体的、精神的な痛みをコントロールし、地域のかかりつけ医との連携によって、「**在宅医療**」を可能にする大きな試みの一歩です。



# 12月議会での質問

抜粋

※紙面の都合上、質問も答弁も言い切り型にしています。

## 1 保育所等の緊急受け入れ



池上

麻生総理から「100年に一度」との発言があったが、経済の混迷が市民生活を直撃している。リストラにさらされる壮年者、高齢の方々にとっても厳しい状況だが、小さな子どもを育てている若い世代の生活は一層厳しく感じられる。年明けから子どもを置いて、両親共に仕事に就かざるを得ないとの声も聞く。定員割れしている公立幼稚園と希望者の多い保育所の統合も含め、緊急の対応策が必要だ。

担当部長

本市では徐々に少子化が進行しているが、保育所に対するニーズは増加している。施策の展開を検討していきたい。

- ◇子育てについては、色々な形があってよいと思うのですが、必要なときに使える良質なサービスの提供は行政の責務です。また、税金の投入で考えると、送迎もなくお昼からは帰る公立幼稚園の多くが定員割れをしている現実をみれば、早急な対応が必要であると考えます。
- ◇以前から保護者の方の希望が多く、「留守家庭児童会室」の時間延長（夕方7時）については遅くなりましたが、今年4月から実現します。

## 2 公共施設内の自動販売機



池上

以前から指摘していた案件だが、枚方市の所有施設である市役所、生涯学習センター（旧公民館）、清掃工場等の多くの施設に設置されている自動販売機設置について、**契約の透明性公正性**が必要である。

担当部長

公募入札を取り入れた。今後も以前からの契約終了時点で順次公募入札に切り替えていく。

**市の所有施設は、床板1枚まで市民のものです。**



不透明な契約、誰にどれほどの利益が入っているかわからないような運営は許されません。入札により、生涯学習センターでは約223万円、東部清掃工場では約217万円の自動販売機設置使用料が市に入りました。

全の施設の自動販売機について公募入札が実施されれば、毎年数千万円の収入になるはずです。

以前は担当課さえ明確でなかったことを考えれば、かなりスッキリしてきましたが、引き続き、チェック、チェック……。

3

## 枚方市職員の健康保険補助



池上

一般企業も含め、**大阪府**及び大多数の自治体職員と市町村の健康保険における負担割合は**1対1**だ。

それにもかかわらず、**大阪府下の職員健康保険**は市町村負担が大きく、数年前は**枚方市だけで年間約3億円**にものぼる過重な負担をしていた。平成21年度からは、ようやく法定の1対1になるとを考えていたのに、まだ年間約**1200万円**をつぎ込もうとしている。健康保険組合に対して、予算措置をとらないなど、強く明確なメッセージの発信が必要だ。

担当部長

今後の推移を注視し、必要な働きかけを行っていく。

4

## 道路工事の26分割事件



### 事件の概要

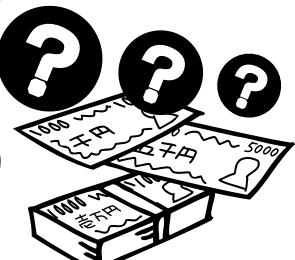


市道補修工事の不具合について、沿道の建設業者から繰り返し苦情を受けていた枚方市の担当者が**苦情をやめさせる目的**で、この業者に対して別の市道補修工事を**発注**していたことが、市の総合契約室の指摘により明らかになった。

担当者は、随意契約で済ませるために、約**750万円**の工事を26件に分割して1件当たりの金額を小さくし、小規模修繕契約にしていた。市は担当課長等を含む3人の懲戒処分をしたというものです。

-新聞抜粋-

一般の契約に比べ金額  
が少ないとはいえ、行政の公  
平性・公正性を揺るがす事件です。  
事件の究明、再発防止を強く問いました。  
とりあえず、6ヶ月に1回だった  
総合契約室の検査は3ヶ月にした  
のですが、引き続き調査が必要  
だと考えています。



郵便はがき

573-1107

枚方市議会議員  
池上のりこ

枚方市楠葉中町35-16

キリトリ

# メンバーとして発信しています。

## 議会改革懇話会

各会派1名で構成している改革懇話会ですが、議会での1問1答形式、休日議会、予算・決算委員会の形式、政務調査費について等、議長からの諮問事項も含め約30項目について、月2回ペースで議員同士の活発な議論が行われています。



## 第4次枚方市総合計画

枚方市としての大きな方向性を示す総合計画が、昨年から引き続き策定作業に入っています。市民の方、各種団体からの代表者、専門家、議員等の多彩なメンバーが構成員です。市長の選挙マニフェストとの関係性が少し曖昧なのですが、色々な見地からの発言があり、2時間の会議がいつもオーバーしてしまう熱気のある審議会です。会長は同志社大学の新川達郎先生です。

※ご意見（パブリック・コメント）をお寄せください。

### パブリックコメント（ご意見）



私事ですが…。

昨年、家族からの勧めもあり脳ドック（MRI）を受けたところ、動脈瘤が見つかりました（泣）。自覚症状は全くなく「まさか!!」というのが実感でしたが、最新の機械は冷徹で鮮明でした。

脳動脈瘤は7～8ミリということで色々選択肢はあったようですが、動脈瘤が破裂した場合は約3割が死亡、約3割に重篤な障害が残るという余りに高いリスクに「手術」を選択しました。手術は、足の動脈からカテーテルを入れ、脳の動脈瘤の「こぶ」にくもの糸のようなプラチナをつめ血流を遮断するというもので、全身麻酔5時間の手術になりました。入院は1週間ほどで、退院後1ヶ月で薬の服用も終わり今のところは完全復帰の状態です。

元気が取り柄で、盲腸の手術さえしたことがなかったのですが、病気になって初めてわかる国民皆保険制度のありがたさ、現代の高度・先進医療のめざましさ等、教えられることも多くありました。議員として「医療・福祉に取り組め」との、何かの啓示だったのかもしれません。

(フリガナ)		年齢 歳
お名前		
ご住所		